

外為マンスリーレビュー

2019/1/07

年始の乱高下で見通し不透明に

通貨ペア	基調		ページ数
ポンド/円	⇒	英政治動向がカギに 予想レンジ: 131.000~146.000円	2 - 3
豪ドル/円	⇒	外部要因に振り回される 予想レンジ: 70.100~82.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

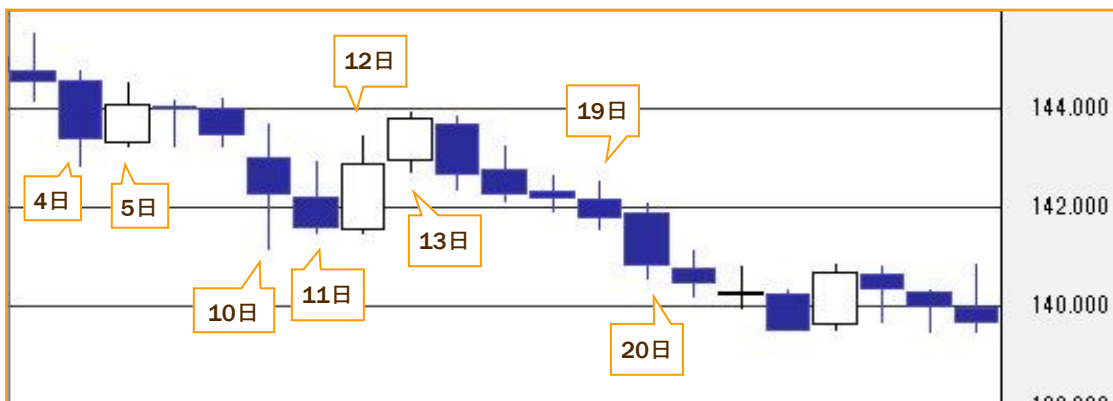


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2019 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ポンド/円 12月の推移

12月のポンド/円相場は139.501~145.513円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.5%の下落(ポンド安・円高)となった。英政府が11月に欧州連合(EU)と合意した英国のEU離脱=Brexit協定案を巡る議会承認への不透明感が重しとなり、ポンドは上値が重く推移。メイ英保守党党首(首相)の不信任投票が否決された事などから持ち直す場面もあったが反発力は弱かった。下旬にかけては、世界的な景気減速への懸念などを背景に主要国で株価が軟調に推移する中、リスク回避の円買いが強まり、ポンド安・円高が加速。クリスマス・イブの24日には約4か月ぶりに140円の大台を割り込んだ。



四本値

OPEN	144.759
HIGH	145.513
LOW	139.501
CLOSE	139.725

4日	欧州連合(EU)司法裁判所の法務官が「英国にはリスボン条約第50条によるEU離脱手続きを一時的に撤回できる権利がある」との見解を示した事が伝わり、ポンド高に振れる場面があった。英11月建設業PMIが53.4と予想(52.5)を上回った事もポンドを支援した。しかし、翌日の臨時休場を前に米国株が大幅に下落すると円高主導でポンド安に傾いた。
5日	英政府は、議会要請に従いメイ首相がEUと合意した離脱協定案に関して法務長官が提供した法的助言の全容を公開。「アイルランド国境問題が解決されない場合の保険として定められたメカニズム、いわゆる関税面の『バックストップ(防衛策)』は無期限に続く可能性がある」などの内容が明らかになった。
10日	「英国はBrexitを一時的に取り消す事が可能」とするEU司法裁判所の判断が伝わり、一時ポンド高に振れる場面があった。ただ、その後に発表された英10月鉱工業生産は前月比-0.6%と増加予想(+0.1%)に反して減少し、英10月製造業生産も前月比-0.9%(予想:±0.0%)に落ち込んだため失速。さらに、メイ英首相が、翌日に予定していた離脱協定案の議会採決延期を表明するとポンド売りが強まった。首相が「来年3月29日に合意なくEUを離脱する場合に備え準備を加速させる」と述べた事もあって先行き不透明感が広がった。
11日	英11月雇用統計は、失業保険申請件数が2.19万件に減少(改善)した一方、失業率は2.8%に上昇(悪化)した(前回:2.32万件、2.7%)。また、8-10月のILO失業率は予想通りの4.1%となり、8-10月の週平均賃金は前年比+3.3%と予想(3.0%)を上回った。これを受けて一時ポンド買いに傾いたが、一部の英メディアが、英与党・保守党議員らがメイ党首(首相)の不信任投票発動に必要な48通の書簡を送付したと報じるとポンド売りに転じた。
12日	英与党・保守党のメイ党首(英首相)に対する不信任投票の実施が決定。これを受けて一時ポンド売りに傾いたが、多くの英閣僚がメイ氏を支持したと報じられた事などから持ち直した。その後、不信任投票の結果が反対多数となり、メイ英首相の続投が決まるとポンドは上昇。ただ、閣僚の支持表明などで信任がある程度織り込まれていた事や、賛成票(不信任票)が117に上った(反対票200)事から伸び悩んだ。
13日	EU首脳会議は共同声明を発表し、Brexit協定案で最も大きな懸案事項となっているアイルランド国境問題を巡る「バックストップ(防衛策)」について、一時的な措置(発動されても永続的な措置とならない)とする方針を示した。
19日	英11月消費者物価指数は前月比+0.2%、前年比+2.3%で予想と一致。なお、英11月生産者物価指数は前年比+3.1%(予想:+3.0%)、英11月小売物価指数は前年比+3.2%(予想:+3.2%)であった。
20日	英中銀(BOE)は政策金利(0.75%)と資産買入れプログラムの規模(4350億ポンド)をいずれも全会一致で決定。議事録では「Brexitがどのような形を取るにせよ、それに対する金融政策の対応は自動的なものではなく、いずれの方向もあり得る」との見解が示された。

GBP/JPY

日経平均

OPEN	22629.39
HIGH	22698.79
LOW	18948.58
CLOSE	20014.77

FTSE100

OPEN	6980.24
HIGH	7145.49
LOW	6536.53
CLOSE	6728.13

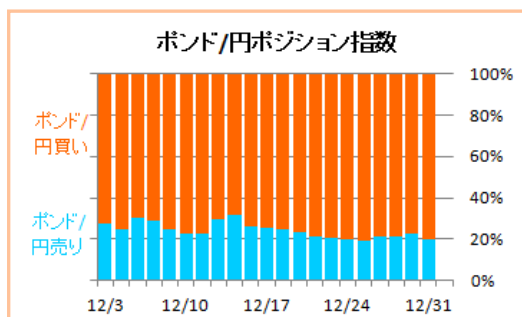
英2年債利回り

OPEN	0.767%
HIGH	0.795%
LOW	0.651%
CLOSE	0.752%

英10年債利回り

OPEN	1.364%
HIGH	1.386%
LOW	1.155%
CLOSE	1.277%

12月のポジション動向



1月の英国注目イベント

- ・12月英製造業PMI(2日)
- ・12月英建設業PMI(3日)
- ・12月英サービス業PMI(4日)
- ・11月英鉱工業生産(11日)
- ・11月英貿易収支(11日)
- ・Brexit協定案英議会採決(14日～)
- ・12月英消費者物価指数(16日)
- ・12月英小売物価指数(16日)
- ・12月英生産者物価指数(16日)
- ・12月英小売売上高(18日)
- ・12月英雇用統計(22日)

1月の見通し

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

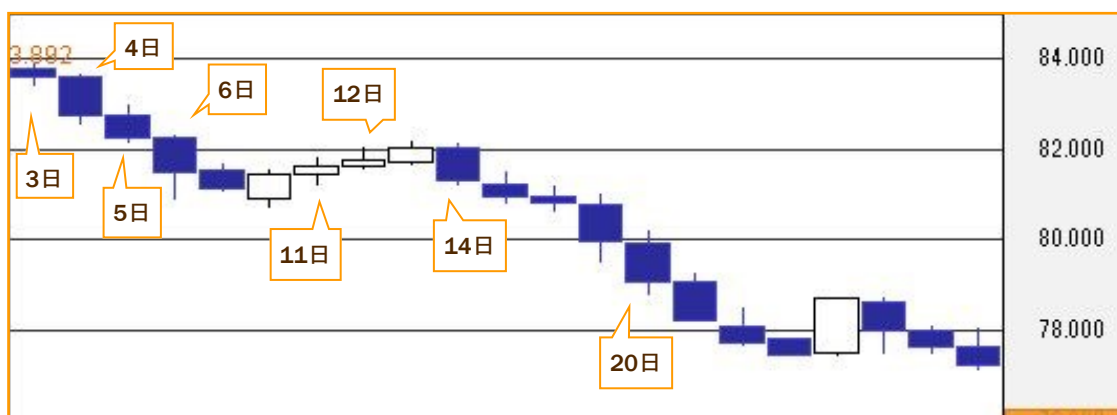
1月のポンド相場の最大の注目点は、英国の欧州連合(EU)離脱=Brexitが3月末に迫る中、離脱協定案について英議会の承認が得られるかどうかだろう。議会採決は第3週(14日の週)に行われる予定となっている。英議会が、政府とEUが合意した離脱協定案を承認すれば、「Soft Brexit」と呼ばれる秩序だった離脱が可能となるため、市場はこれを好感してひとまずポンド高に振れるだろう。しかし、議会にはなおも反対勢力が多く、1月7日時点で承認のメドは立っていない模様。このまま採決を行い否決されれば「Hard Brexit」と呼ばれる無秩序な離脱が現実味を帯びる事になり、ポンド安が進みそうだ。なお、英議会は9日から離脱協定案の審議に入る模様。一部には採決を再延期するとの見方もくすぶるが、メイ首相は15日前後に実施する方針を改めて示している。1月のポンド相場は、英国の政治動向を睨んで大きく変動する公算が大きいいため、想定レンジを広めにしておくきたい。(神田)

(予想レンジ:131.000~146.000円)

豪ドル/円 12月の推移

AUD / JPY

12月の豪ドル/円相場は77.148～83.892円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは7.0%の大幅な下落(豪ドル安・円高)となった。米中貿易戦争の影響などから世界的に景気減速懸念が広がったため、グローバルに株安が進行。日経平均株価が月間で約11.6%下落、NYダウ平均も約9.5%下落した他、NY原油先物が約14.2%下落するなど、リスク資産価格が軒並み値下がりする中、ひと月を通して豪ドル売り・円買いが優勢だった。なお、豪ドル/円相場は12月の21日間の取引のうち、日足が陽線で引けたのは僅かに5日だけであった。大晦日の31日には77.10円台まで下落して2016年11月以来2年1カ月ぶりの安値を付けた。



四本値

OPEN	83.812
HIGH	83.892
LOW	77.148
CLOSE	77.263

3日	前週末1日に行われた米中首脳会談で貿易戦争の「一時停戦」が決まった事を受けて豪ドル/円は、前週末終値から80銭近く上昇して取引がスタートした。ただ、協議の行方は依然として不透明な事から買いは続かなかった。なお、米中首脳会談は、米国が2019年1月1日に発動予定だった2000億ドル相当の対中輸入への関税引き上げ(10%から25%へ)を90日間猶予し、知的財産権の侵害問題などの協議を開始する事で合意した。
4日	豪中銀(RBA)は政策金利を1.50%に維持すると発表。声明も「失業率の低下とインフレの目標達成にさらなる進展が期待されるが、進展は緩やかである可能性」「政策スタンスを変更しないことが経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」などと前回までの見解を踏襲した。
5日	豪7-9月期国内総生産(GDP)は前年比+2.8%、前期比+0.3%に減速(4-6月期:+3.1%、+0.9%)し、いずれも予想(+3.3%、+0.6%)を下回った。これを受けて豪ドル売りが強まった。
6日	中国通信機器大手、ファーウェイの孟晩舟CFO(最高財務責任者)兼副会長が米国の対イラン制裁に違反した疑いで逮捕されたことが伝わると米中関係の悪化が懸念され、アジア株の総崩れとともにリスク回避の円買いが活発化。その後、豪10月貿易収支は23.16億豪ドルの黒字と予想(30.00億豪ドルの黒字)を下回り、豪10月小売売上高は前月比+0.3%と予想通りの伸びとなった。
11日	中国商務省が声明を発表し、劉鶴副首相がムニューシン米財務長官、ライトハイザー通商代表部(USTR)代表と貿易協議の日程やロードマップについて電話で協議した事が明らかとなった。米中貿易摩擦の回避に向けた取り組みを好感して、一時豪ドル高に振れる場面があった。
12日	米国の対イラン制裁違反の疑いでカナダ当局に逮捕されていた中国通信大手ファーウェイ副会長の保釈をカナダ裁判所が認めた事が伝わると、豪ドル買いが強まった。前日にトランプ米大統領が「中国との非常に生産的な対話が続いている！いくつかの重要な発表に注意しろ！」とツイートした事もあって米中間の摩擦激化への懸念が和らいだ模様。
14日	中国11月小売売上高は前年比+8.1%、同鉱工業生産は前年比+5.4%となり、いずれも予想(+8.8%、+5.9%)を下回るとともに、10月(+8.6%、+5.9%)から減速。これを受けて豪ドル売りが活発化した。
20日	豪11月雇用統計は新規雇用者数が3.70万人増と市場予想(2.00万人増)を上回ると瞬間的に豪ドルが買われた。ただ、失業率が5.1%と横ばいの予想(5.0%)を上回りやや悪化したことや、新規雇用者数の内訳であるフルタイム雇用者数が0.64万人の減少に転じたことで買いは続かなかった。

AUD/JPY

日 経 平 均

OPEN	22629.39
HIGH	22698.79
LOW	18948.58
CLOSE	20014.77

NYダウ平均

OPEN	25779.57
HIGH	25980.21
LOW	21712.53
CLOSE	23327.46

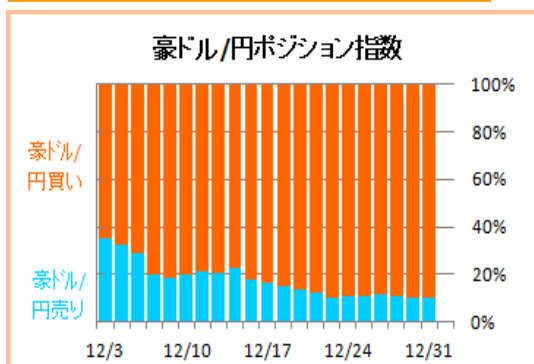
上海総合指数

OPEN	2647.132
HIGH	2666.078
LOW	2462.845
CLOSE	2493.896

豪10年債利回り

OPEN	2.612%
HIGH	2.627%
LOW	2.318%
CLOSE	2.318%

12月のポジション動向



1月の豪州・中国注目イベント

- ・ 12月中国財新製造業PMI (2日)
- ・ 12月中国外貨準備高 (7日)
- ・ 11月豪貿易収支 (8日)
- ・ 11月豪住宅建設許可件数 (9日)
- ・ 12月中国消費者物価指数 (10日)
- ・ 11月豪小売売上高 (11日)
- ・ 12月中国貿易収支 (14日)
- ・ 11月豪住宅ローン件数 (17日)
- ・ 10-12月期中国GDP (21日)
- ・ 12月中国鉱工業生産 (21日)
- ・ 12月中国小売売上高 (21日)
- ・ 12月豪雇用統計 (24日)
- ・ 10-12月期豪消費者物価指数 (30日)
- ・ 1月中国製造業PMI (31日)

1月の見通し

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

豪ドル/円相場は年末年始の市場混乱に巻き込まれて、3日には一時70円台前半まで下落した。世界的な株安や原油安などで、市場のリスク許容度が急激に萎む中、ストップロスの投げ売りが相次いだ。ところがその後、米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が、利上げ休止に含みを持たせる発言を行い市場の沈静化に動く姿勢を示した事などから一転して急激に反発。4日には77円台を回復するなど2019年の豪ドル/円相場は波乱のスタートとなっている。70円台はさすがに「異常値」と考えられるが、下値不安はくすぶり続けよう。当面は、市場センチメントが両サイドに振れやすいと見られ、豪ドル/円もそれに連れて乱高下しやすいと考えられる。引き続き、主要国株式や原油などの資産価格の動向に注意が必要だろう。その他、景気下ブレ懸念が根強い中国の経済面にも注目、1月21日には中国10-12月期国内総生産(GDP)が発表される。なお、1月は豪国内は夏季休暇シーズンに当たるため、豪中銀(RBA)理事会も行われない。1月の豪ドル/円相場は外部要因に振り回される展開が続きそうだ。(神田)

(予想レンジ: 70.100-82.000円)